2024.AUTUMN
令和6年/秋号
vol.140

ほっかいどう福祉だより【しあわせ】

SHIAWASE

特集

外国人介護人材と目指す福祉の未来

MY WORK

設立40周年
千歳社会福祉協会

Discover Hokkaido

木の個性を生かす
唯一無二の技法

Voices

読者さんからの
お便り

ふくしる

「ふくしる」は、「福祉」と「知る」を合わせた造語で、福祉をもっと知ってほしい、という願いを込めました。

外国人介護人材と目指す福祉の未来
～障がい者支援施設の取り組み～

福祉現場の人手不足を解消する力として、外国人介護人材が期待を集めています。外国人材を積極的に受け入れてきた障がい者支援施設しりべし学園成人寮と、同施設を運営する社会福祉法人黒松内つくし園に、外国人材の定着と活躍を支援する取り組みを伺いました。

障がい者施設での採用の工夫

近年、外国人介護人材を採用する福祉施設が増えています。その一方で、受け入れ体制やコミュニケーションなどに不安を持つ施設も多く、特に、障がい者施設での採用はあまり進んでいないのが実情です。

知的障がい者の支援施設「しりべし学園成人寮」は、2020年から外国人材の受け入れを始めました。2024年9月現在、カンボジア人3名、インドネシア人2名が貴重な戦力として現場を支えています。

施設長の遊部（あそべ）眞澄さんは「東南アジアでは、高齢者を敬う習慣はありますが、障がい者の存在はほぼ認知されておらず、最初は障がい者を介護する必要性や意義を理解してもらうのに苦心しました」と振り返ります。外国人材の採用活動では、知的障がいの特徴を丁寧に説明した上で、業務は高齢者の介護と変わらない部分が多いことを根気強く伝え、採用につなげてきました。

日本語スキルの向上や介護福祉士の国家資格取得への支援なども行い、意欲を持って働いてもらえる環境づくりに努めています

職場の協力や理解を重視

外国人職員は利用者さんの生活面の支援のほか、夜勤も担当しています。遊部さんは「外国人職員には個人差もありますが、3カ月ほど経験を積み、業務に慣れてから夜勤を担当してもらいます。また、当施設では1階と2階に一人ずつ夜勤者を配置しているのですが、必ず日本人職員とペアにすることで、緊急時などにも対応できるようにしています」と、外国人職員へのサポート体制を説明します。ほかにも、薬の管理では、薬箱に利用者さんの顔写真を貼ることで誤薬を防ぎ、日本語の聞き取りが難しい外国人職員には、ゆっくり話をしたり、繰り返し伝えるといった工夫をしています。

施設長の遊部眞澄さんは、障がい者施設での外国人介護人材の受け入れに積極的に取り組んできました

外国人材の円滑な受け入れには、日本人職員の理解や協力が不可欠です。同施設では、外国人職員の出身国について、日本人職員が学ぶ機会を設け、文化や習慣、宗教などの違いに配慮するように促しています。遊部さんは「負担が増えた面もありますが、それよりも人材不足に対する日本人職員の危機意識が強く、外国人材も大切な仲間として、前向きに受け入れてきました」と話します。

日本語での会話はとてもスムーズ。今後は夜勤記録の作成や、職員の会議で発言できるようになることを目標にしています

外国人職員を支える仕組み

しりべし学園成人寮を運営する「社会福祉法人黒松内つくし園」は、高齢者施設や障がい者支援施設、児童福祉施設など、幅広い福祉事業を展開。2017年に介護福祉士国家資格を持つベトナム人を採用したことを皮切りに、継続的に外国人材を受け入れてきました。2024年9月現在、4カ国、43名が、7つの施設で働いています。

同法人本部では、外国人職員を支援するため、専任の担当者を配置しています。人事部の村上真澄さんは、生活や仕事の相談から、さまざまな届出、銀行口座の開設まで、一手にサポート。時には「明かりがつかない」「鍵をなくした」といった困り事にも対応し、外国人職員から絶大な信頼を得ています。「私が全体の窓口となることで、一貫した対応を行うようにしています。外国人材の受け入れ制度に詳しい企業の力を借りたり、行政機関や地域住民の方の協力も得ながら、長く働いてもらえる環境づくりを目指しています」

試行錯誤もありました。例えば、不慣れな環境での生活を心配するあまり、外泊時に届けを出してもらおうとしたところ、「行動が制限される」という声が出て届けを見送ることに。また、法人が整備した宿舎で、出身国の異なる職員が共同生活をしたこともありましたが、文化や生活習慣などの違いに配慮し、現在は国ごとに住居を分けています。

人事部部長の追切（おいきり）さおりさんは「法人の方針に基づき、各施設でも外国人職員をサポートしています。定着率を高める上で、支援体制の一本化は重要」と言います。ほかにも、日本語能力試験や介護福祉士国家試験の受験を支援し、外国人職員の働く意欲を高めることで、定着率の向上を図っています。

社会福祉法人黒松内つくし園で働く外国人職員のサポート窓口を担う村上真澄さん

一つ一つ、着実に課題解決を

近年、同法人では特定技能の外国人材の採用が増えています。追切さんは「出身国への技能移転のための学びを目的とした技能実習と比べ、特定技能は現場ですぐに力を発揮してもらうことができます。育成にかかる負担が少ないことなど、メリットは大きい」と理由を説明します。

しりべし学園成人寮で働く5名も、全員が特定技能です。施設を維持する上で、即戦力となる外国人職員は欠かせない存在となっています。遊部さんは、外国人材の採用を検討する施設への助言としてこう話します。「外国人職員は仕事への意識が高く、現場に良い効果をもたらしてくれます。コミュニケーション面のトラブルも、当施設では起きていません。案ずるより、まずは受け入れてみて、課題が出てきたら一つ一つ解決していくことが大切。その取り組みを積み重ねることが、誰もが働きやすい職場づくりにつながっていくのだと考えています」

法人本部人事部部長の追切さおりさんは「外国人職員の定着には、問題への早期介入も重要」と言います

社会福祉法人黒松内つくし園
障がい者支援施設
しりべし学園成人寮
黒松内町字黒松内565-2
TEL.0136-77-2950
https://tsukushien.or.jp/facilitie/94
1977年に知的障がい者更生施設として開設。2012年より生活介護・施設入所支援事業に移行し、知的障がいのある人が自立した日常生活を営むためのサポートや就労支援などを行っています。

MY WORK

四季折々の遊びや多様な仲間との関わりを通し たくましい心身と豊かな人間性を養う

1984年に設立された「社会福祉法人千歳社会福祉協会」は、地域に根ざした保育と子育て支援に取り組んできました。同法人が運営する「認定こども園　向陽台」の保育の特徴と、子どもたちに向き合う保育教諭の活動を紹介します。

社会福祉法人
千歳社会福祉協会
認定こども園 向陽台
千歳市若草5丁目2-2　TEL.0123-28-3300
https://www.kouyoudaihoikuen.jp

幼保連携型認定こども園へ

1970年代後半に住宅地の開発が始まった千歳市の向陽台地区。住民の増加とともに保育ニーズが高まり、1984年に社会福祉法人千歳社会福祉協会が「向陽台保育園」を開設しました。

近年になり、働き方の多様化が進んだことや、共働き以外の家庭からも子どもを預けたいという声が高まったことを受け、2022年に「認定こども園　向陽台」に移行。幼稚園と保育所の機能を併せ持つ幼保連携型の施設として、0歳から5歳まで、約90名の園児を受け入れ、家庭的な環境の中、子どもの心に寄り添う保育に取り組んでいます。

多様な経験が心身を育む

園長の佐々木朋美さんは、保育の特徴について「自然に恵まれた環境を生かした活動を多く取り入れています。虫や小動物と触れ合ったり、園庭で育てている果樹を収穫して食べたり、冬には近くの公園でそり遊びをしたり、四季折々の自然との触れ合いを通し、たくましい心身を育てています」と話します。また、障がい児保育にも取り組み、多様な子どもたちが関わり合うことを通し、他者を思いやる心や自立心を育てるようにしています。

園長を務める佐々木朋美さん

クラス別の活動に、担任以外の保育教諭が関わるのも特徴の一つです。すべての保育教諭が子ども一人一人の性格や発育状況などを知り、どの子どもにも適切に対応できるようにしています。多くの大人が子どもを見守っているという安心感を持ってもらうことで、保護者との信頼関係を築いているそうです。

子どもと親を支えるために

地域との連携にも力を注いでいます。特に、隣接する向陽台小学校との関わりは深く、年長クラスの担任が小学校の授業を見学したり、小学校の生徒が来園して劇の発表を行うなど、さまざまな交流活動を通し、幼児期と小学校での教育がスムーズにつながるように工夫しています。

子育て支援も重視している取り組みの一つです。子育ての悩みや不安を持つ人が気軽に相談できる機会を設け、対話を重ねながら共に解決を図るようにしています。また、0歳児から対応している一時預かりは、育児疲れなどを解消する手助けにもなっています。「保護者の頑張りに共感し、お子さんの成長を一緒に喜んだりすることで、子育てに自信を持ってもらうことが大切」と佐々木さんは言います。こうした取り組みを通し、地域の子育て支援に貢献することを目指しています。

多様な遊びを通し、自立心や思いやりの心などを育んでいます

同じ目線で向き合いながら

今春から主幹保育教諭を務める入江麻美さんは、15年前に当時の向陽台保育園に入職しました。「小学生の頃から、小さい子どもと関わる仕事に憧れがあり、将来は保育の仕事をしようと決めていました。向陽台保育園は自然豊かな保育環境と年間を通してさまざまなイベントを行っていることに、他の園にはない魅力を感じました」と振り返ります。

主幹保育教諭として、他の保育教諭のサポートや環境整備を担当する入江麻美さん。特に安全面には配慮しているそうです

働き始めた当初は、学校で学んだ保育の理論と、保育現場での実践の違いに戸惑い、悩んだこともあったという入江さん。先輩からアドバイスを受けながら経験を積み、試行錯誤を繰り返す中でたどり着いたのが「子どもと同じ目線に立ち、誠実に向き合う」という姿勢でした。

子どもと一緒に遊んだり、ものづくりをしたりしながら、心身の発達状況なども確認します

「子どもたちは、誰もが異なる個性を持っています。そのことを尊重し、一人一人としっかり向き合うことが大切なのだと気づきました。この思いは今も変わっていません」

入江さんが保育の仕事をする上で心がけているのが体力づくりと体調管理です。子どもと全力で遊び、一人一人に配慮した保育や教育を実践するには「心身ともに健康であることが必要」と笑います。

日々、喜びや驚きを感じて

主幹保育教諭は、園長や副園長をサポートし、担任は持たず、さまざまなクラスに関わることで、他の保育教諭の活動を支援します。また、施設の環境整備も重要な仕事の一つです。「今は、毎日学ぶことばかり。園長や副園長にアドバイスを受けながら、誰もが安心して活動できる環境を整えていきたいと思います」と入江さんは言います。

保育教諭は子どもとの関わりだけでなく、保護者や地域の人たちとのコミュニケーションも求められます。体力や気力に加え、対応力も必要な仕事です。入江さんは「大変な仕事だと思われるかもしれませんが、苦労や努力よりも、子どもたちとの関わりで得られる喜びや楽しさのほうが上回っています」と言います。子どもの行動力や発想力、たくましく成長していく姿に、毎日のように驚きや発見があり、それが仕事のモチベーションになっているそうです。

近年は、子育てに対する考え方が大きく変わりつつあります。入江さんは、自立心や協同性の育成などの普遍的な目標は大切にしつつ、新しい考え方にも対応していきたいといいます。「当園を選んで良かったと思ってもらえるように、令和の時代の視点も取り入れ、魅力ある保育環境をつくっていきたいと思います」

子どもと同じ目線に立ち、個性を尊重する保育を実践しています

Discover Hokkaido
北海道ものづくり
CHITOSE

木の個性を生かす唯一無二の技法

小西木材 小西 康裕さん

多様な木を組み合わせ、美しい模様を持つ作品を作る木工作家がいます。
自分らしい表現方法を追求する中で独自の技法にたどり着いた
小西康裕さんのものづくりにかける思いを紹介します。

小西 康裕（こにし やすひろ）**さん**

千歳市出身。木工作家。北海道認定木育マイスター。
個展やグループ展、ワークショップなどを多数開催する。

2024年11月20～26日に丸井今井札幌本店大通館3階ザ・ステージ＃3において、小西さんと2名のクリエイターによる作品展を開催。

小西木材
千歳市東雲町5丁目60 TEL.090-9086-6577
https://konishimokuzai.com ※不在が多いため、来訪時は必ず事前に連絡を

524（コニシ）と刻印されたキーホルダー

家業の継承を機に木工の道へ

複雑に入り組んだ模様が美しいブローチや曲線のデザインが印象的なペン。さまざまな木を組み合わせ、個性的な作品を生み出しているのは小西康裕さん。独自の技法や作風が注目を集める木工作家です。

小西さんは千歳市で木材卸売り業を営む小西木材の3代目。大学卒業後、道外で家具の販売などに携わっていましたが、家業を手伝うため30歳で地元に戻りました。「その時、実家の経営状況があまり良くないことを知りました。このままではいけないと思っていたところ、旭川の家具メーカーの社長さんに勧められ、旭川高等技術専門学院で木材加工の基礎を学ぶことにしました」

家業は建築資材などの木材の取り扱いが中心のため、旭川で初めて木の加工技術を学んだという小西さん。卒業後は父親の仕事を手伝いながら、木工作品づくりを始めました。

他にはない作品性を追求

小西さんの心にずっとあったのが「自分で一からデザインしたものをかたちにしたい」という思いでした。当初はテーブルなどを作っていましたが、家具は個人で手がけるにはデザインの自由度が低く、個性が出しにくいことに気づいたそうです。

「一見普通だけれど、よく見るとこだわりが詰まっている作品を作りたいと思いました。小さい物の方が自分らしさが出せると考え、小物を中心に作るようになりました」

「他にはないもの」をテーマに表現方法を模索するうち、好きだった寄せ木の技法を取り入れることを思いついたという小西さん。色の異なる木を組み合わせ、それを削り出すことで、独自の作風を追求していきました。直線や幾何学模様に加え、近年は緩やかな曲線を表現した作品を打ち出し、好評を得ています。

もう一つのこだわりが「デザインに意味を持たせる」ことです。例えば、バターナイフの握り部分を三角形にしたのは、デザイン性と握りやすさを共存させるため。そうした細かな工夫やこだわりも、作品の特徴になっています。

木を見て湧いてくるインスピレーションを大切にしながら作品を作っています

木の個性を生かし使い切る

小西さんの寄せ木作品には、多いもので10種類以上の木が使われています。道産材のほか、鮮やかな赤色をしたアフリカンパドックや重厚な色合いのブラックウォールナットなどを交え、複雑な模様を表現します。中でも珍しいのが「埋もれ木」と呼ばれる濃い灰色をした木材。長い間、土や水の中に埋もれていた木が完全に炭化せず残ったもので、作品の独自性をより高めています。

使用する木材の中には、木工の世界を引退した人から譲り受けた貴重なコレクションも含まれています。そうした人たちの思いに応えるためにも、木材の個性を生かし、大切に使うことを心がけているといいます。「割れた木や残った端材も、工夫次第で作品にすることができます。木材を最後まで使い切ることができるのも、小物を作る良さだと考えています」

個性的でありながら、日常の生活にもなじむ作風が人気

木の作品の魅力を伝えるため

ここ数年、デパートでの作品展やイベントへの出店など、作品を知ってもらう機会が増えています。「誘いは断らない」のがポリシーのため、忙しい日々を送っていますが、同じ志を持つ仲間と出会い、さらに活動の幅を広げています。また、北海道認定の「木育マイスター」として、ワークショップの依頼を受けることも多く、木を使ったものづくりの魅力を伝える活動にも力を入れています。

「今後は北海道以外の人にも、自分の作品を知ってもらいたい」と話す小西さん。独自の作品性を追求し、新たな挑戦を続けていきます。

小西さんの作品は購入可能（ホームページを確認）。
ヘアゴム・ブローチ各3,300円、ボールペン7,920円、キーホルダー6,930円

独自性を追求し、寄せ木でカーブを描く技法を編み出しました

千歳立ち寄りグルメ

カフェ ダンデライオン
道産素材にこだわったハンバーグが自慢。高タンパクでビタミンや鉄分が豊富なエゾシカ肉のハンバーグは、リンゴのソースとの相性抜群。エゾ鹿のジビエハンバーグ1,380円～。※混むことがあるので電話予約がお勧め
千歳市勇舞6丁目7-2　TEL.0123-22-3185
11:00～20:00（ラストオーダー19:30）月曜定休（祝日の場合は翌日休）

Nanairo（ナナイロ）
地元の素材を生かした四季折々のケーキが人気。長沼産のリンゴを使ったアップルパイ（220円）は秋の名物。ピスタチオ480円、レモンのレアチーズケーキ500円（秋限定）、シュークリーム220円。
千歳市勇舞1丁目6-19　TEL.0123-23-1978
10:00～18:00　月曜・木曜定休

たい焼き 田中家
製餡会社が営むたい焼き店。千歳産小豆で作ったあんが尻尾までぎっしり。小倉あんの他、黒ごまあんや米粉を使った変わり種も。小倉あん・こしあん160円、黒ごまあん170円、米粉たい焼き230円。
千歳市住吉1丁目12-4　TEL.0123-42-3388
10:00～17:00　年末年始を除き無休

※料金・価格は税込みです

SHIAWASE クロスワード

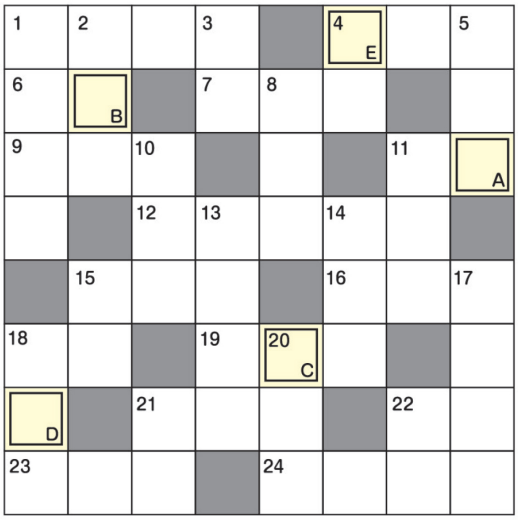
Q.二重マスA～Eでできる言葉は何でしょう？

[タテのカギ]

1 ハロウィンで野菜といえば？
2 「秋刀魚」と書く魚
3 小中学校の9年間は○○教育
4 鳥の赤ちゃん
5 曲がり角にある○○○ミラー
8 13がK、12がQなら、11は？
10 投げたり振ったりして、降参を示す布
11 芸道や学問などの核心、奥義
13 物事の始まり、起こり
14 言い値の反対語
15 噴火○○＝内浦○○
17 展示や撮影などで使われる立体模型
18 人材不足の一助に、外国人○○○実習生
20 種子がチョコレートの原料に
21 ○○は熱いうちに打て
22 南がSなら、北は？

[ヨコのカギ]

1 衣服を何枚も着ること
4 浦河、様似、えりもは○○○管内の町
6 覆水○○に返らず
7 実は同類、同じ穴の○○○
9 「巷」を3文字読むと？
11 優劣の差がないこと
12 札幌-網走間を結ぶＪＲの特急は？
15 3拍子の舞曲
16 秋鮭の中で1万匹に1匹という貴重な魚
18 「しろがね」ともいわれる金属
19 到底手の届かない、○○○の花
21 ○○○御免、○○○一品、○○○太平
22 魚はここで呼吸
23 夢か○○○か幻か
24 道南の紅葉の名所、○○○○国定公園



こたえ

A	B	C	D	E

作：石田竹久

手工芸詰め合わせセットを20名様にプレゼント!

エコバッグと円座座布団、ふきん、コースター、キーホルダー、一筆箋の詰め合わせです。（一社）ふれあいデジタル工房が作りました。同工房では現在、約30名の利用者さんがそれぞれの希望や適性に応じた部門で各種業務に従事しています。コースターは、生地の素材感や配色にこだわったハンドメイドでぬくもりを感じます。一筆箋は、利用者さんがパソコンでデザインしたかわいい絵柄で、縦線・横線の2種類があります。
お問い合わせは（一社）ふれあいデジタル工房（帯広市）、電話0155-23-6699へ。

※夏（7月）号の答えは「ボンオドリ」でした。
当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

応募のきまり

締め切り:2024年11月30日(土)23:59
応募方法:右の二次元コードよりご応募ください。
ハガキの場合は①クロスワードの答え②郵便番号③住所④氏名(フリガナ)⑤性別⑥年齢⑦電話番号⑧お勤め先⑨本紙の感想を明記の上、
〒060-0001　札幌市中央区北1条西7丁目プレスト1・7(4階)　北海道民間社会福祉事業職員共済会「しあわせ」係までご応募ください。
※皆さまから寄せられたご感想などは本紙に掲載させていただく場合があります。掲載された方には「しあわせ」オリジナルグッズをプレゼントします。

読者さんからのお便り Voices

夏号（139号）を読んで

保育士として保育園で働いてますが、自分の知らない世界を知ることができてとても楽しいです。自分の職場でも何かできることはないかな、と考えるきっかけにもなります。
（小樽市・Kさん）

自分の職場に関わることは勿論、違う分野の取り組みも自分の働く分野に生かせるものもあり、毎回新たな学びをいただいております。今後とも楽しみにしております。
（北広島市・Kさん）

尽力されている福祉業界の方々の様子を知ることができ視野が広がります。モチベーションにも繋がるので、高い意識の中で活躍されている方の話もとても参考になります。
（新得町・Nさん）

北海道に住んでいても知らないことが沢山あることを実感しました。色んな情報を得られるのを楽しみにしています！ 今後も記事を読んで学びたいと思います。
（札幌市・Kさん）

自身の職場以外の取り組みを知ることで、視野が広がりました。畑は違っても、取り組む姿勢はどんな職種の方からも学びえると感じました。
（北見市・Uさん）

様々な施設の取り組みや、北海道の特産品などの紹介があり、毎号とても楽しみにしています。プレゼントに選んでいる商品も出かける際のお土産の参考になっています。
（北見市・Eさん）

ほっかいどう福祉だより［しあわせ］
SHIAWASE
発行/一般社団法人 北海道民間社会福祉事業職員共済会
札幌市中央区北1条西7丁目 プレスト1・7　4階
TEL.011-251-3828　FAX.011-251-3848
https://www.kyousaikai-shiawase.jp　[Email] kouhou@kyousaikai-shiawase.jp

SHIAWASE vol.140　2024年10月31日発行　編集：㈱北海道新聞HotMedia　印刷：メディック株式会社